

総長就任のあいさつ



愛知県がんセンター総長

丹羽 康正

愛知県がんセンターは1964年12月に病院と研究所を併有し設置されました。癌研究会病院、国立がんセンターと並ぶ歴史を持つ老舗のがん専門病院であり、愛知県における都道府県がん診療連携拠点病院として県内のがん診療をけん引する施設です。

最近のがん診療の進歩は目覚ましく、すべてのがんをまとめた5年生存率は65%を超えています。従来の外科治療、薬物治療、放射線治療に加えてがんゲノム診断や薬物療法、免疫治療の進歩により、各種の治療法を適切に組み合わせることにより臨床の現場において進歩を実感しております。しかし、一方で隣臓がんなどの予後の悪いがんや同じ臓器に発生したがんでも急速に進展するものもあり、がんは一筋縄ではいかない病気です。2007年に施行された「がん対策基本法」では日本における「がん医療の均てん化」が目的とされました。2018年度に閣議決定された第3期が

ん対策推進基本計画では、1. がん予防、2. がん医療の充実、3. がんとの共生、が挙げられ、全国的な医療水準を引き上げるとともに、2. がん医療の充実の部門に「がんゲノム医療」や「希少がん、難治性がん」の記述もされ、より専門性を要するがん治療の集約化が目指されています。全国あるいは世界に情報発信できるよう研究に努め、病院と研究所が一体となり、がんを深く理解し、がんを患った人に対して最も適切な医療を提供していきたいと考えております。「がんにならない、がんになっても安心な愛知県」であるよう県下の地域がん診療連携拠点病院とともに情報発信し県民の皆様に良質ながん医療を提供してまいります。

「がんになったら、まず愛知県がんセンター」と県民の皆様から言っていただけますように引き続き努めて参ります。

病院長就任にあたって



愛知県がんセンター病院長

山本 一仁

2022年4月1日付けで病院長を拝命しました山本一仁です。1964年に、がん研究会、国立がんセンターに続き日本で3番目に開設された伝統ある愛知県がんセンターの病院長に就任することは、大変名誉である一方、このような重責を担うこととなり、身が引き締まる思いです。

愛知県がんセンターは、研究所が併設されたがんセンターとして、東海地区のみならず、日本、世界のがん医療、がん研究に貢献してきました。一方で、がんの医療と研究を取り巻く状況は日進月歩です。日本人の半数はがんと診断される時代において、県民はじめ皆様からは、がんセンターに期待するものとして、「最先端のがん医療」が最上位に上がっています。これは我々の基本理念である「最先端の研究成果と根拠に基づいた最良

のがん医療を提供」と合致するものです。

まず第一に、最良のがん医療を提供するためには、その基盤を強固とすることが最も重要な課題と考えています。そのために「特定機能病院」を取得し、それを基盤として更なる高みを目指すことで、最良のがん医療を提供する環境作りに全力を尽くしたいと考えています。

分子標的薬やがんゲノムの臨床現場への導入により、基礎研究と医療の現場がより近くなっています。幸いにも愛知県がんセンターには研究所が併設されており、その環境は整っています。研究所と有機的な連携を図り、臨床研究を推進することで患者さんに最先端の医療を提供できる体制をこれまで以上に整備したいと考えています。

また、最良のがん医療を提供するためには、単にがんを治療するだけでなく、患者さんとその家族の苦痛や不安を総合的に支援する体制、医療安全体制や病院機能・質の向上を図ることが重要な事項ですので、重点的に取り組んでいく所存です。

私自身は、医師人生の3分の2を愛知県がんセンターの病院と研究所で勤務しており、がんセンターに育てて頂いたと感謝をしています。患者さんのみならず、県民、職員の皆様から応援される病院を目指し、次世代に繋いでいくことが病院長としての責務であると同時に恩返しであると考えています。今後とも温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

愛知県のサルコーマ医療の充実のために



がん情報・対策研究分野長

伊藤 秀美

サルコーマは希少がんと言われ、発生率が非常に少ないがんです。症例数が非常に少ないために、診療できる病院や医師に限られる、治療開発がなかなか進まない等、患者さんに対する情報も少なく、診療上の課題が大きながんです。日本でも、サルコーマなど希少がんの患者さんに適切な医療を届けるため、2015年からがん対策の重点的に取り組むべき課題となりました。胃、肺、大腸、乳房、肝臓などの発生率の高いがんにはどこでも標準的な専門医療が受けられるがん医療の均てん化が必要ですが、サルコーマには専門施設で集学的な治療を受けられるようにする集約化が必要です。愛知県がんセンターでもサルコーマセンターが2016年に東海地区で初めて開設されるなど、希少がん治療の集約に向けた取り組みが開始されました。

このたび私は、サルコーマ寄付金による研究助成を受けることとなりました。整形外科部の筑紫聡先生、藤原那沙先生と協力し、愛知県のがんに関するビッグデータを用いて、サルコーマ医療の充実を目標に研究を進めていく予定です。サルコーマの診断・治療の実態を把握し、愛知県では治療の集約化が順調に進んでいるのか、集約化により患者さんの予後は改善しているのかなどを評価します。また、集約化による患者さんへの負担についても評価し、集約化のメリットとデメリットを整理した上で、サルコーマの医療提供体制が適正に構築されているかを検討します。本研究の成果は、学術的な公表とともに、患者さんにもわかりやすい形で情報発信をしていきます。このように、愛知県のサルコーマ医療の充実のために、全力で取り組んでいきたいと考えています。

この度、サルコーマ研究費用としていただいた寄附金について、がんセンター内で公募した結果、がん情報・対策研究分野の伊藤分野長が研究することになりました。

愛知県がんセンターでは、医療体制の充実や研究促進のため、寄附金として皆様からの支援をお願いしています。いただいた寄附金は、医療・研究機器や設備の充実、がん克服に向けた研究推進などに使わせていただきます。申込方法などの詳細はホームページをご覧ください。

<https://cancer-c.pref.aichi.jp/site/folder17/>

皆様のご理解、ご支援をいただきますようお願い致します。



新たな神経内分泌腫瘍（NET）の治療法



消化器内科部 医長
水野 伸匡

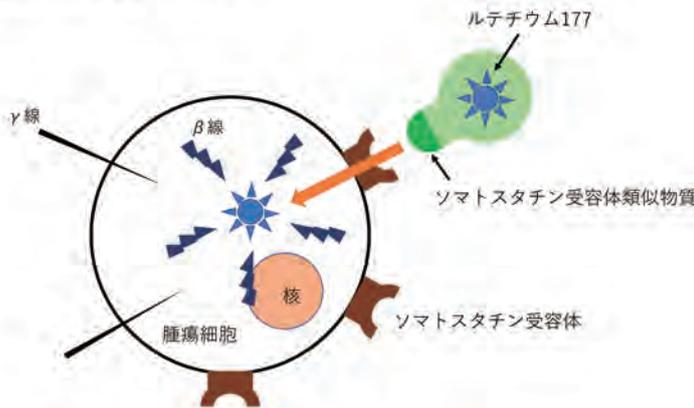
神経内分泌細胞に由来する腫瘍の総称である神経内分泌腫瘍（NEN）は希少がんであり、悪性度の低い腫瘍の神経内分泌腫瘍（NET）と悪性度の高い腫瘍の神経内分泌癌（NEC）に大別されます。

NETに対して、昨年新たに放射性核種標識ペプチド治療（PRRT）のルテチウムオキシドトレオチドが薬事承認されましたのでご紹介します。治療のタイミングですが、現行のガイドラインでは二次治療以降で、エベロリムスやストレプトゾシンなど他の治療が効かなくなつた場合に推奨されています。当院でも院内の実施体制を整え、本年2月から実際の治療を開始しました。ルテチウムオキシドトレオチドはソマトスタチン類似物質に、 β （ベータ）線および γ （ガンマ）線という放射線を出す物質（ルテチウム177）を標識（結合）した医薬品です。ソマトスタチン受容体が腫瘍細胞の表面に発現していることを事前に確認したNETの患者さん

に対して投与します。ルテチウムオキシドトレオチドがソマトスタチン受容体に結合し、細胞の内側から放射線で腫瘍細胞を直接攻撃します（図1）。治療スケジュールは8週間隔で4回投与し、約6ヶ月間の治療期間となります。ルテチウムが出す γ 線は体の外にも出するため、投与後は放射線を適切に管理できる病室内に一定期間（通常は1-2日間）滞在しなければなりません。当院ではルテチウム投与前日に入院し、体調の観察や採血で投与の可否を判断し、投与翌日の退院を基本としています（図2）。またルテチウムは腎臓を通して主に尿として体外に排泄されます。放射線から腎臓を保護する目的に、ルテチウム投与30分前からライザケア®輸液を投与します。

本治療について詳しくは担当医にお尋ねください。

図1. 放射性核種標識ペプチド治療（PRRT）



〔PDRファーマ株式会社〕ホームページより引用、一部改変

（図1）

図2. 放射性核種標識ペプチド治療の入院スケジュール



〔PDRファーマ株式会社〕ホームページより引用、一部改変

（図2）

2022年度 愛知県がんセンター公開講座（オンデマンド配信）

◇配信期間及びテーマ

回	配信期間	申込期間	テーマ	講師
1	2022年 5月13日（金）14時から 5月27日（金）14時まで	2022年 4月28日（木） から 5月25日（水） まで	講演「AYA世代がん患者の悩みとその支援」 ①AYAがん患者に対する妊孕性温存 <20分程度> ②愛知県がんセンターにおけるAYA支援チ ーム活動と支援 <20分程度> ③愛知県がんセンターにおけるAYAがん患者 相談支援体制 <20分程度> ④愛知県におけるAYA世代がん患者支援 <20分程度>	司会：病院長 山本 一仁 婦人科部 部長 鈴木 史朗 看護部 緩和ケアセンタージェネラルマネージャー 吉川 恵 相談支援室 室長補佐 野崎由美子 愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 がん対策グループ 課長補佐 井城 茜
2	2022年 7月1日（金）14時から 7月15日（金）14時まで	2022年 6月17日（金） から 7月13日（水） まで	講演「前立腺がん診療の最新知見について」 ①前立腺がん診断における進歩 <20分程度> ②手術療法について <20分程度> ③放射線治療における最新の話 <20分程度> ④薬物治療の最前線 <20分程度>	司会：泌尿器科部 部長 小島 崇宏 泌尿器科部 専門員 北野 剛士 泌尿器科部 専門員 田中しおり 放射線治療部 部長 古平 毅 泌尿器科部 医長 小倉 友二
3	がん征圧月間 【がん征圧講演会】 2022年 9月2日（金）14時から 9月16日（金）14時まで	2022年 8月19日（金） から 9月14日（水） まで	講演「社会のニーズに応える 愛知県がんセンターの幅広いがん研究」 ①皆さんの参加ががん克服に活かされる ： キャンサーバイオバンク愛知 <20分程度> ②がん診療力を評価して向上につなげる ： がん登録情報を使った研究 <20分程度> ③がんて起こる標準治療のない合併症に挑む ： 悪液質を克服する研究 <20分程度> ④全国どこでも最新の治験に参加できるように ： 遠隔治験システムの構築 <20分程度>	司会：副所長兼がん病態生理学分野長 青木 正博 がん予防研究分野長兼バイオバンク 部門長 松尾恵太郎 がん情報・対策研究分野 分野長 伊藤 秀美 副所長兼がん病態生理学分野長 青木 正博 薬物療法部 医長 谷口 浩也
4	2022年 11月4日（金）14時から 11月18日（金）14時まで	2022年 10月21日（金） から 11月16日（水） まで	講演「膵がんの診療 up to date」 ①膵がん総論－膵がんを知ろう－ <20分程度> ②膵がんの診断法－最新の知見－ <20分程度> ③膵がんの外科治療－手術治療の進歩－ <20分程度> ④膵がんの内科的療法－劇変する薬物療法－ <20分程度>	司会：副院長兼消化器外科部長 清水 泰博 消化器内科部 部長 原 和生 消化器内科部 医長 桑原 崇通 消化器外科部 医長 夏目 誠治 消化器内科部 医長 羽場 真
5	2023年 2月3日（金）14時から 2月17日（金）14時まで	2023年 1月20日（金） から 2月15日（水） まで	講演「乳がん治療最前線」 ①遺伝性乳癌卵巣癌症候群の最前線 <20分程度> ②乳房再建手術の最前線 <20分程度> ③周術期治療の最前線 <20分程度> ④再発治療の最前線 <20分程度> ⑤ゲノム医療の最前線 <20分程度>	司会：副院長兼乳腺科部長 岩田 広治 乳腺科部 医長 吉村 章代 形成外科部 医長 奥村 誠子 乳腺科部 医長 澤木 正孝 乳腺科部 医長 服部 正也 ゲノム医療センター 医長 能澤 一樹

◇視聴料：無料（ただし、通信料は、自己負担となります。）

◇視聴方法：事前申込が必要です。

※事前に愛知県がんセンターWebページの公開講座申込みフォームよりお申込みください。

YouTubelによるオンデマンド配信です。事前申込みされた方に、視聴するためのURLをメールにてお送りします。

◇対象者：どなたでも事前申込のうえ、受講できます。

ただし、視聴するためのインターネット環境が必要です。

◇その他：1 この内容は、愛知県がんセンターWebページでも御覧になれます。

2 申し込みいただいた方の個人情報は、当該目的以外に使用しません。

3 都合により予告なく中止、講演内容等の変更をすることがあります。

【問合わせ先】

愛知県がんセンター 運用部経営戦略課 公開講座係

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号

* TEL（代表）052-762-6111（内線2510） * FAX 052-764-2963

* 公開講座ホームページ <https://cancer-c.pref.aichi.jp/site/folder6/3975.html>

愛知県がんセンターのホームページをリニューアルしました

日頃より愛知県がんセンターのホームページをご覧いただきましてありがとうございます。

愛知県がんセンターでは、「私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。」を基本理念とし、がんセンターのことや、がんに関する様々な情報を発信いたします。

ご覧いただく皆様に、より快適に便利にご利用いただくため、デザインや掲載情報及び構成を見直し生まれ変わりました。

リニューアルにともないURLが変更になりましたので、ブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、新しいページのURLへの登録変更をお願いいたします。

これまで以上に使いやすいサイトを目指し、内容の充実に努めてまいります。

今後ともご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。

※新ホームページはこちらから
<https://cancer-c.pref.aichi.jp>



なぜ愛知県がんセンターは選ばれているのか



なぜ私たちは選ばれるのか



メッセージ「いまを、未来を、あなたと共に」



私たちのおもい



数字で見る愛知県がんセンター



私たちの実績



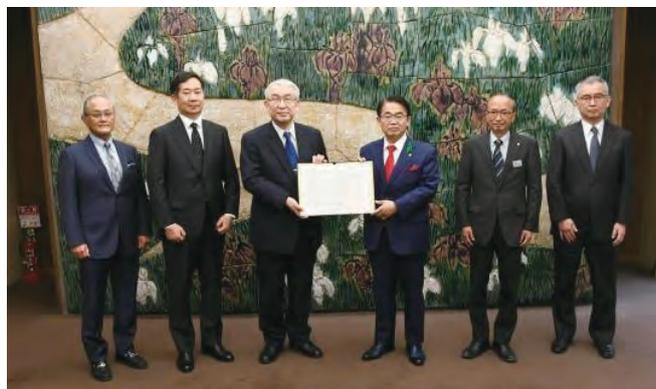
私たちのポテンシャル

愛知医科大学との基本協定の締結について

愛知県と愛知医科大学は、愛知県がんセンター及び愛知医科大学の研究能力・人材を活かし、科学技術の振興と有為な人材を育成することを目的に連携・協力を推進するための基本協定を締結いたしました。

愛知県がんセンターは、がん研究会、国立がん研究センターに次ぎ、昭和39年に開設された歴史を持つ、国内有数の総合がんセンターです。

当センターは、この度の基本協定の締結を受けた密接な連携・協力のもと、現時点の最新・最良の医療を提供するのみならず、次世代のがんの予防と医療の革新に向けた研究を、より一層強力に推進してまいります。



とろく医探訪

さとう乳腺内科・健診クリニック 院長:佐藤 成憲 先生



愛知県がんセンターの先生ならびにスタッフの方々には、日頃より大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。さとう乳腺内科・健診クリニックは、名古屋市営地下鉄一社駅より徒歩1分で、無料駐車場もあり、アクセスしやすい場所に開院しました。乳腺診療と人間ドックを含め各種健康診断を行っております。乳腺診療は、検診で精密検査が必要になった方の二次精密検査・自覚症状がある方の精密検査を、マンモグラフィ・乳房超音波検査を基本に、1.5テスラのMRIを設置しておりますので、適宜、造影乳房MRIを施行し、細胞診・組織診を組み合わせ診断しています。乳がんなど治療を要する場合は、愛知県がんセンターなどの連携病院にご紹介させて頂いております。また、術後ホルモン治療を中心に、がん連携パスを行っております。愛知県がんセンターからも多くの患者さんをご紹介頂いており、愛知県がんセンターのスタッフの方々への対応も、迅速丁寧で、とてもありがたいです。当クリニックは、健康診断が行える施設ですので、乳がん術後の方々にホルモン治療以外に生活習慣病対策・栄養指導も提供し、また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者さんへ1.5テスラのMRIを利用した定期検査を提供したいと考えています。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

【医療機関情報】

さとう乳腺内科・健診クリニック



診療科目／乳腺外科 乳腺内科 内科

電話／外来 TEL 052-702-3330

健診 TEL 052-702-1480

所在地／〒465-0093

愛知県名古屋市名東区一社2丁目8

オオター社ビル3F

ホームページ／<https://sbi-kenshin.com/>



地下鉄東山線
一社駅すぐそば！



	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	/	○	○	○	/
午後	14:00-18:00	○	○	/	○	○	/	/
【休診】水曜、土曜午後、日曜、祝日								

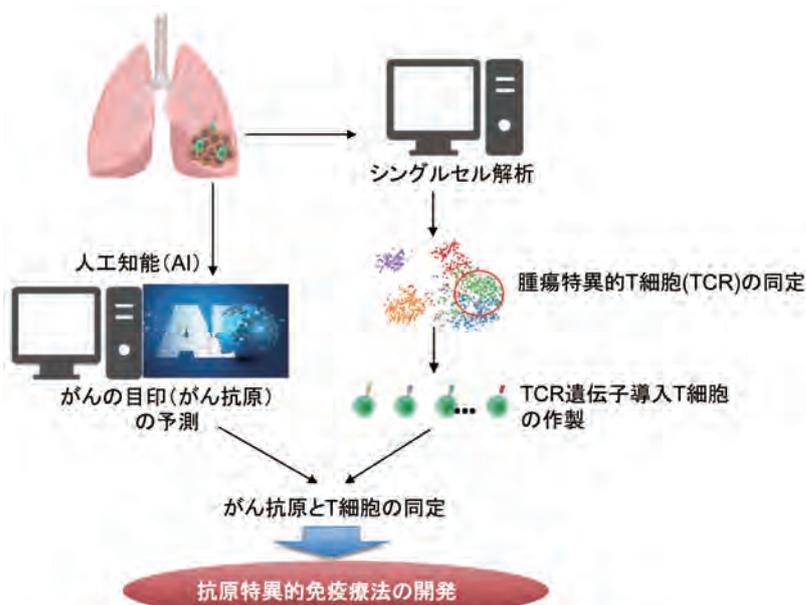
編集後記：いくつかのクリニックが入っているビルの3階で、中に入ると、待合室や受付はホテルのようなシックな雰囲気を醸し出しており落ち着きます。乳腺専門クリニックだけでなく、一般内科、健診対応にも力をいれており、地下鉄東山線・一社駅2番出口より東へ徒歩1分という好立地にあることや、WEB予約にも対応していることから、仕事や家事に忙しい世代にとっても親和性が高いと感じます。当院へは乳がんの患者さんをご紹介いただいているほか、乳がん地域連携パスによる共同診療の連携をお願いしております。今後ともよろしくお願いたします。Y. SANO

シングルセル解析とAIによる がん抗原同定システム



腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野 分野長 松下 博和

がん治療の中で、免疫チェックポイント阻害剤が標準治療としての地位を確立していますが、治療効果を認める患者さんはまだ僅かです。免疫チェックポイント阻害剤は、腫瘍特異的T細胞の活性化を介して治療効果を発揮します。私たちは、患者さんの腫瘍に浸潤しているT細胞の中から、この腫瘍特異的T細胞集団を明らかにするために、一つ一つのT細胞の遺伝子発現とT細胞受容体を解析できるシングルセル解析という方法を活用しています。また、私たちは、この腫瘍特異的T細胞が認識するがんの目印（がん抗原）の探索を、企業と連携で人工知能（AI）を活用して進めています。シングルセル解析で同定した腫瘍特異的T細胞が、AIで予測されたがん抗原を認識するかを実験で証明します。一人一人の患者さんで、鍵となるがん抗原及びそれを認識するT細胞が同定できれば、抗原に対する免疫応答を増強する有効ながん免疫療法の開発に繋がります。さらに、この抗原特異的免疫療法は、免疫チェックポイント阻害剤との併用で上乗せ効果が期待できると考えています。



図：抗原特異的免疫療法の開発に向けたがん抗原同定システムの構築
TCR, T細胞受容体

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野の紹介

分子診断トランスレーショナルリサーチ分野では、ヒトやマウスの血液や手術で取り除いたがん組織、がん細胞が試験管内で半永久的に増殖を続けるがん細胞株など、様々な生体材料を用いて、タンパク質を中心に大規模な分子解析を行っています。その結果をもとに、早期診断や治療効果の予測につながる新しい血液診断テストや、治療の標的となる分子の特定、それらを実際の治療に生かすまでの幅広い研究を展開しています。



写真：前列左から、奥村三穂子（研究補助）、佐野実保（研究補助）、山田有沙（技師）、荒川未和（秘書）、島田友香子（嘱託技師）、加藤清子（研究補助）、
中列左から、梶野泰祐（主任研究員）、安宗聖子（秘書）、田口歩（分野長）、阿部雄一（主任研究員）、久間佳奈（研究補助）
後列左から、磯村久徳（リサーチレジデント）、奥本泰秀（嘱託技師）、川越かをる（研究補助）、ZHOU, Shuang（連携大学院生）、水野和幸（任意研修生、名古屋大学大学院医学系研究科）
上段囲み左から、森 佐代美（技師）、神谷恵子（研究補助）

咽頭・喉頭がんに対するロボット支援手術



頭頸部外科部 医長 西川 大輔

2022年度の診療報酬改定が行われ、咽頭・喉頭がんに対するロボット支援手術が保険承認されました。具体的には、ダヴィンチ・サージカルシステム（図）を用いて咽頭・喉頭のがんを切除する手術となります。咽頭・喉頭というのは、「のど」に当たり、「話す」「食べる」「息をする」といった人間にとって大切な機能を担っています。これらの重要な機能を温存するために、近年、咽頭・喉頭の早期がんに対する、内視鏡を用いた低侵襲かつ機能温存を目指した手術が発展してきており、当院でもこれまでに多くの内視鏡での咽頭・喉頭手術を行ってきました。今回、そこに新たな治療手段が加わったということになります。ロボットを使った手術の利点としては、3D内視鏡を用いた良好な視野、繊細で自由度の高い操作が可能なロボットアーム、手振れ防止システムなどが挙げられます。これらの利点を活かすことで、内視鏡による咽頭・喉頭手術の安全性、有効性がより向上することが期待されます。現在、頭頸部外科では、咽頭・喉頭がんのロボット支援手術を早期に導入し、患者さんに新しい治療を早くお届けできるよう準備を進めています。



図 ペイシェントカートを設定

サージョンコンソールでロボットを操作

ロボットアームで腫瘍を切除

「気になっているしこり（腫瘍や腫れ）はありませんか？」

整形外科部

2021年度は179施設より504名と多くの患者さまを紹介いただきました。平素は患者さまのご紹介等、連携医療機関の先生方にはご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

整形外科部の最大の使命は『しこりの診断外来』です。しこり（軟部腫瘍）は専門に診療する医師や施設がほとんどなく、診断が非常に難しいと言われています。当科では4名の専門スタッフが、あらゆる部位のしこりを診断する外来を行っています。気になっているしこりがある場合は、どこの部位でも、良性腫瘍や悪性腫瘍が疑われる場合でも、お気軽にご紹介もしくは受診をよろしく願いいたします。



写真：左から、
濱田俊介（整形外科医長）
筑紫 聡（整形外科部長）
吉田雅博（リハビリテーション部長）
藤原那沙（整形外科医長）

テクノロジーの統合により高精度で 低侵襲な脳腫瘍手術を目指す



脳神経外科部 部長 大野真佐輔

近代脳神経外科手術は50年ほど前の手術顕微鏡の導入から始まり、以降様々な医療機器の開発に伴い急速に発展してきました。最近ではこれらの医療機器の統合を通じてより正確で安全で患者さんの負担の少ない手術法の開発が進められています。

わたくしも愛知県がんセンターに赴任してこの一年ニューロナビゲーションシステムを使った脳腫瘍の手術の発展に取り組みました。ニューロナビゲーションシステムは車のナビと同じく術者が脳のどこを操作しているのかを画像で表示してくれる装置です。この装置にトラクトグラフィーと呼ばれる疑似的な運動神経経路を投影することが可能になりました。これにより運動神経経路の損傷の回避が期待されます。また昨年末からニューロモニタリングも導入されました。手術中に電気刺激で運動神経経路を絶えずモニタリングすることにより麻痺の合併症の回避が期待されます。

そのほかにも患者さんの脳の損傷を最小限にするチューブレトラクターやナビゲーション誘導下針生検術なども導入しました。今後とも患者さんの安全と負担の軽減を目指した精密な低侵襲手術の技術を磨き上げていきたいと思っております。

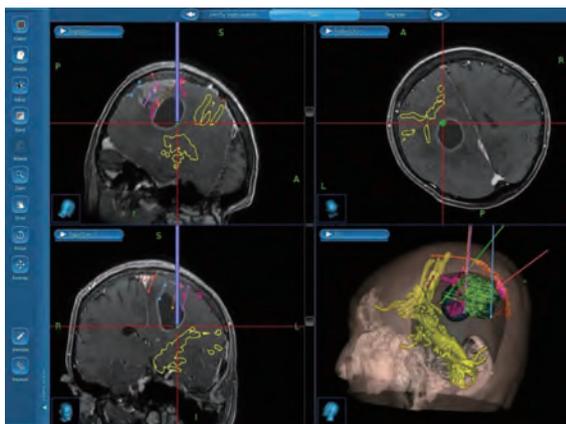


図1：ニューロナビゲーションシステムとトラクトグラフィーの融合。ニューロナビゲーションシステムに患者さんの頭部の立体画像が表示され（右下画面）、脳腫瘍や血管、脳溝（脳のしわ）が表示されている。2次元画面（右上、左上、左下画面）の中心に現在の手術操作部位が表示される。トラクトグラフィーにより作成された錐体路（運動神経の走行経路）の位置情報も取り込まれ表示される。脳腫瘍（緑）、嚢胞（青）、血管（橙）、脳溝（桃）、錐体路（黄）

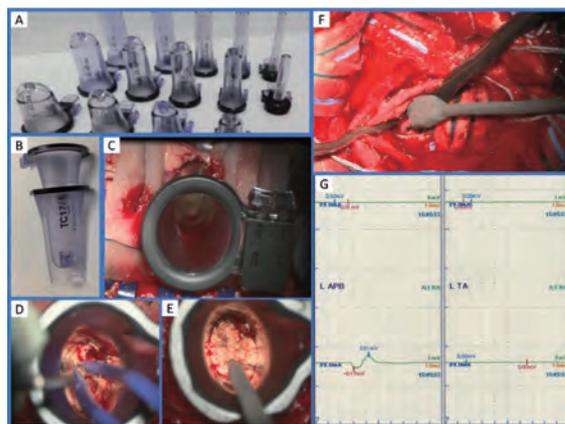
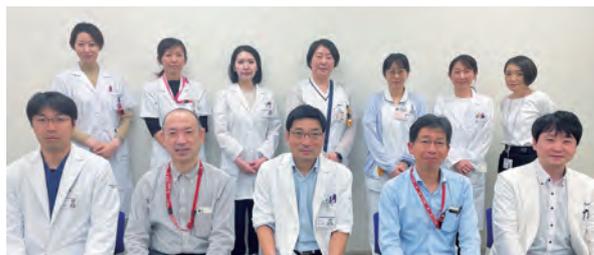


図2：ニューロナビゲーションシステムにチューブレトラクターや神経モニタリングを融合させた手術。チューブレトラクター（A）は内筒と外筒により構成される（B）。脳表から刺入し（C）、目標に到達後内筒を抜き去ると術野が展開される（D；止血中、E；ナビで位置確認中）。端子で脳の神経線維（運動神経の経路：錐体路）を電気刺激する（F）。神経が損傷していなければ筋電図に記録される（G；左下（左下肢））

ゲノム医療センターの紹介

ゲノム医療センターは、院内のゲノム関係の部署を統合し、本年4月より発足しました。センターには、がんゲノム医療室とリスク評価室が設置されています。がんゲノム医療室は、がん細胞に起きる遺伝子の異常を、がん遺伝子パネル検査などを用いて評価し、新たな治療を提供することを目標としています。リスク評価室は、生まれつき起きている遺伝子の変化とがんの発生について評価し、遺伝カウンセリングなどを通じて、がんの予防につなげることを目標としています。これらの活動を通し、患者さんの予防から治療まで関われることを目指しています。



写真：前列中央、衣斐センター長 他スタッフ一同

第16回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

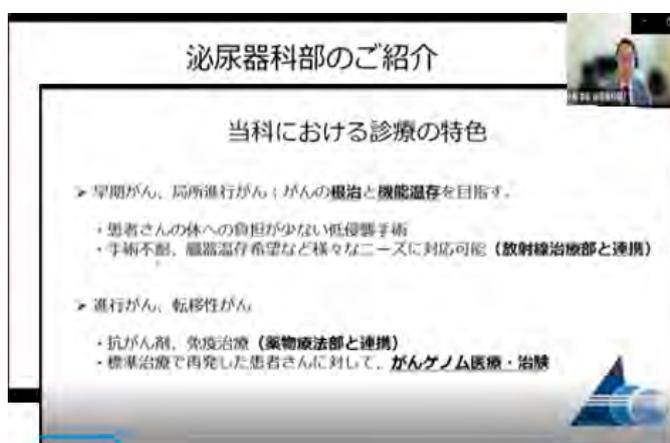
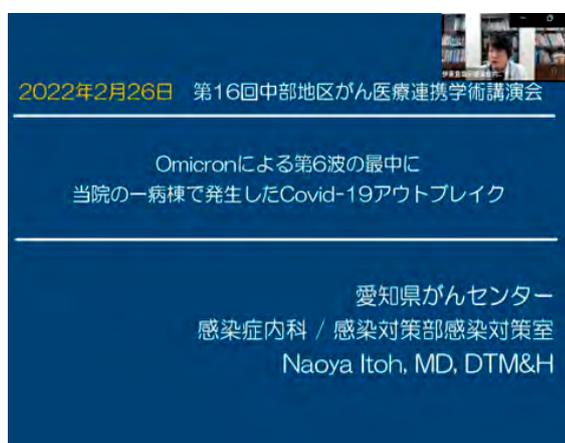
2月26日（土）に近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第16回中部地区がん医療連携学術講演会をオンラインで開催しました。81人もの先生方に、近隣からだけでなく遠方からもご参加いただき、ありがとうございました。

当院診療部門からの案内として、呼吸器内科部、泌尿器科部、脳神経外科部からの紹介を行いました。

また、地域医療連携・相談支援センターから、昨年1月から開始したオンラインセカンドオピニオンの相談件数や、新型コロナ状況下での当院の状況を報告いたしました。

話題提供では、オミクロンによる第6波の最中の当院での新型コロナウイルス感染状況について講演を行い、活発な意見交換も行われ、有意義な会となりました。

次回、第17回中部地区がん医療連携学術講演会は、7月16日（土）にオンラインにて開催いたします。



新任医師の紹介



あさの ともなり
浅野 智成
消化器外科部

この度、消化器外科部に赴任いたしました浅野智成と申します。専門は、肝臓、胆道及び膵臓の手術を中心とした外科治療です。患者さんのお話を聞き、丁寧な説明を行い、安全で質の高い手術が提供できるように努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



きたの ごうし
北野 剛士
泌尿器科部

今年度4月より愛知県がんセンター泌尿器科部に赴任致しました。近年がん治療の進歩により、治療法は多様化しています。治療選択を悩まれる方は少なくないかと思っております。患者さん一人一人と向き合い、各々に対して最良の医療を提供できるよう心掛けていきます。よろしくお願い致します。



たなか 田中しおり
泌尿器科部

4月より泌尿器科に赴任しました、田中しおりと申します。泌尿器科としてはまだ珍しい女性医師の立場を活かしながら、患者様に寄り添った治療を提案できるように精進いたします。よろしくお願い致します。



わたなべ えり
渡邊 絵里
婦人科部

3月1日付で、名古屋大学医学部附属病院より赴任いたしました。一人ひとりの患者さんに最も適した治療をおこなえるよう、また病気そのものや治療に伴う不安や辛さを少しでも共有・軽減できますよう、努めて参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



いまみね りんぺい
今峰 倫平
放射線診断・IVR部

放射線診断・IVR部に赴任しました今峰倫平と申します。CTやMRI、核医学や超音波などの画像を介して病気を診断し、カテーテルや針などを用いて治療しています。日進月歩のがん治療を多くの方々から学びつつ、臨床と研究に邁進したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

医療連携のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
F A X	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	https://cancer-c.pref.aichi.jp 「医療関係者の方へ」－「医療連携」をクリックしてください。

外来診療担当表

受付時間	午前8時30分から午前11時30分 (都合により診察医の変更あるいは休診の場合があります)				
休診日	土、日、祝日、年末年始				
※医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※(SO)はセカンドオピニオン診療だけの場合に表します。 ※(初)－(初診)・(再)－(再診) 2022年5月1日					
診療科目	月	火	水	木	金
総合初診	稲葉	原	室	堀尾	田近
消化器内科	原(初) 田中(初) 奥野 山田 倉石 水野(申)(SO) (第2・4)	原 田近 山田(初) 桑原	原 羽場 田近 山雄(SO)	丹羽(初) 水野(申) 奥野 田中 大西(初)	田近(初) 水野(申) 山田 桑原 田中(SO) 羽場
呼吸器内科	渡辺(初) 山口(再) 堀尾(再)	藤原(初) 山口(再) 渡辺(再) 大矢(再)	清水(再)(初) 大矢(再) 藤原(初)	山口(初) 堀尾(再) 清水(再) 渡辺(再)	堀尾(初) 山口(再) 藤原(初) 大矢(再)
循環器科	山本(再)	佐藤		山本(再)	
血液・細胞療法	田地(再) 齋藤(初)	柳田(初) 山本(再) 加藤(再) 森島(SO) 大野(随時)	田地(再) 加藤(初) 齋藤(再) 森島(SO) 大野(随時)	柳田(再) 山本(再)/籠谷(初) 齋藤(再) 大野(随時)	田地(初) 加藤(再) 柳田(再)
薬物療法	安藤(初) 舛石(初) 室(初)	門脇(初) 谷口(初)	室(初) 本多(初) 成田(初)	谷口(初) 舛石(初)	安藤(初) 門脇(初) 成田(初)
頭頸部外科	花井(再) 寺田(第1・3・5)(再) 別府他(初)	鈴木(再) 西川(第1・3・5)(再) 別府(第2・4)(再) 澤部他(初)	花井(初) 澤部(再)	花井/寺田(第2・4)(再) 西川(再) 鈴木他(初) 寺田(第1・3・5)(再)	別府 澤部(第1・3・5)(再) 鈴木(第2・4)(再) 西川他(初)
形成外科	高成/中村 奥村	高成 奥村 丸山 中村	高成 丸山 中村	高成 奥村 丸山 中村	
呼吸器外科	高橋(初)	鈴木 黒田(初)	坂倉(初)	黒田(初)	鈴木 黒田(初)
乳腺科	片岡(再) 小谷/尾崎(初) 澤木(再) 岩田(SO)	岩田(再) 吉村/片岡(初) 服部(再) 能澤(再)	小谷(再) 服部(初) 吉村(再) 岩田(SO)	小谷(再) 岩田(初) 能澤(再) 安藤(再) 澤木(再)	服部(再) 澤木(初) 吉村(再) 岩田(SO) 片岡(再)
消化器外科	松垣 安部 三澤(第2・4週) 伊藤(第1・3・5週)	三澤 木下(再) 奥野(再)	小森(再) 伊藤(再) 清水(再)	夏目 伊藤(再) 大内 安部(初)	佐藤 安部(SO) 浅野(初) 榎野(SO) 藤枝
整形外科・サルコマセンター外来	濱田(初) 筑紫(初) 吉田(初)	筑紫(初)	吉田(初)		濱田(初) 藤原(初)
脳神経外科	灰本		大野	灰本	大野
泌尿器科	小島(初) 小倉 田中		小島 小倉(初) 北野		北野(初) 小倉 田中(初)
婦人科	森(初)	鈴木(初) 渡邊 坪内(初)	坪内(初) 安井(初)	鈴木(初)/森 第1・3・5週 安井(初)/森(初) 第2・4週	渡邊(初)
放射線診断科	稲葉(初) 村田	長谷川(初)	稲葉(初) 山浦		稲葉 加藤
放射線治療科	古平(初) 立花(再) 小出(再)	古平(再) 立花(初) 小出(再)	古平(初) 立花(再)	古平(再) 小出(初)	立花(初) 小出(初)
精神腫瘍科	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)
緩和ケア科・ペインクリニック	下山(午後)	下山(午前)	下山(午後) 木村(ペイン) (午後)	下山(午前)	下山(午後) 長谷川
遺伝カウンセリング	井本	井本	井本	井本	井本
がんゲノム外来	衣斐		能澤		足立
※現在は、当院受診中の患者さんのみ受け付けております。					
糖尿病外来	細川(午後)			細川(午後)	
腎臓内科				担当医(午後)	
皮膚科	森	森	横田	森	
眼科		立川(午前のみ)			立川(午後のみ)
リンパ浮腫		中村(午前)		中村(午前)	
※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く) ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)					

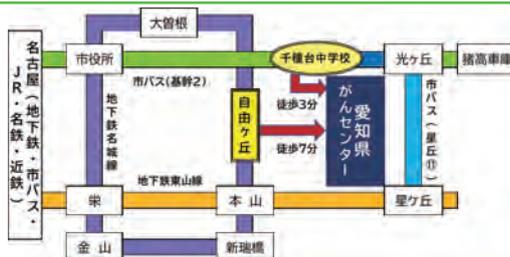
交通のご案内

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのアクセスのご案内

- 一般道路 本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- 高速道路 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分



愛知県がんセンター
第80号 2022年5月発行

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 TEL052-762-6111(代)
ホームページ：<https://cancer-c.pref.aichi.jp>
編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は mail : kohonews@aichi-cc.jp または fax : 052-764-2963 にてお寄せください。なお、個別の返答は致しかねますので予めご了承ください。

